

国立病院機構北海道がんセンター全面建替整備工事
基本・実施設計、工事監理業務委託
公募型プロポーザル審査結果報告書

平成27年6月4日

建築設計事務所選定委員会

国立病院機構北海道がんセンター全面建替整備工事 基本・実施設計、工事監理業務委託
公募型プロポーザル審査結果報告書

平成27年6月4日

建築設計事務所選定委員会

委員長 近藤 啓史

委員 長瀬 清

中山 茂樹

平山 妙子

生田 直樹

加藤 秀則

国立病院機構北海道がんセンター全面建替整備工事 基本・実施設計、工事監理業務委託公募型プロポーザルについて、次のとおり審査結果を報告します。

1 審査結果

建築設計事務所選定委員会（以下、「選定委員会」という。）は、審査を厳正かつ公正に行った結果、次の者を最優秀者に特定しました。

最優秀者 石本建築事務所

2 審査までの経過

(1) プロポーザル実施方法の決定

平成27年2月16日（月）第1回選定委員会開催

国立病院機構北海道がんセンター全面建替整備工事設計業務技術提案書提出者選定及び技術提案書評価要領に基づく実施手順を確認し、公募型プロポーザル説明書、委託仕様書、技術提案を求めるテーマ、提案書作成方法、最優秀者特定方法等について決定しました。

(2) 公告

平成27年3月10日（火）公募型プロポーザル方式 手続開始公告
病院及び機構本部ホームページに掲載

(3) 参加表明書の提出

平成27年3月11日（水）から25日（水）まで募集を実施した結果、2者から参加表明書の提出がありました。

(4) 技術提案書提出者の選定

参加資格等を確認し、参加表明書の提出のあった2者について、参加資格があることを確認し、平成27年4月3日(金)全者に選定結果の通知を行いました。

なお、技術提案書には本病院の特徴、今後の医療施設の在り方、敷地条件、運営面への配慮などを鑑み、公募型プロポーザル説明書にも記載した次の5点をテーマとし、これらに対する具体的な技術提案を求めることとしました。

- ① 工事期間中の病院経営に配慮した工法及び建物配置
- ② 診療機能の充実と効率化が図れる構造
- ③ 患者さんに優しく職員が働きやすい病院
- ④ 災害に強い病院
- ⑤ コスト削減及び省エネルギー

(5) 技術提案書に関する質問書の提出

平成27年4月27日(月)までの間に、1者から質問がありました。

(6) 質問書への回答

平成27年5月12日(火)までに、全社に質問に対する回答を行いました。

(7) 提案書の提出

平成27年5月15日(金)までの間に、2者から技術提案書の提出がありました。

(8) ヒアリングの打合せ

第3回選定委員会(平成27年5月26日(火)開催)において、委員7名全員の出席のもと、事務局から打合せ後に行うヒアリングについて説明を行い、手順、評価ポイントの確認を行いました。

3 審査の講評

(1) 全体講評

今回の北海道がんセンター全面建替整備工事にあたっては、診療機能を維持しつつ狭隘な敷地の中で全面建替を行うという、通常の病院建築より難度の高い提案を求めることとなりました。また、公道を挟んだ隣接地の利用方法、日影等の法規制による建物形状の制限も提案の難易度が上げる要因になったと思われました。

こうした条件の下、北海道におけるがん診療連携拠点病院として、がん治療の中心をなし、今後の診療機能の強化に応えられる提案を求めることとしました。

一方で、診療機能を維持しつつ建て替えを行うことへの配慮、災害発生時にも診療機能を維持する工夫についてもアイデアが求められました。

さらに、安定した病院運営を行うための省エネ対策、寒冷地としての寒さ・結露対策の提案も期待されました。

このような背景から、上述した5つのテーマを中心に技術提案を提出頂きました。評価については、プロポーザルということで提案そのものを評価するのではなく、担当される技術者の本業務への理解度、提案力、熱意を評価し、「人」を選ぶことを重視しました。技術提案書及びヒアリング結果の審査においては、建設時における運営面・患者への配慮、病床配置、1床当たり面積等について意見交換し、今回計画に対する設計の考え方、姿勢について注目しました。

厳しい設計条件のもと、テーマに沿った提案を限られた時間で提出頂きましたが、参加者から示唆に富む意欲的な提案を数多く頂きました。

(2) 選評

最優秀者 株式会社 石本建築事務所

既存病棟を一部先行解体するという大胆な提案がなされました。これは、建替後の病棟構成を重視した結果であり、2個病棟となる階のスタッフと患者の動線分離、多職種の交流スペースの配置を可能としています。全体構成としては、外来、病棟、手術、放射線、検査を同じ建物にまとめ、更衣を除く管理部門は別棟とし診療機能の効率化が図られました。災害対策については、地震危険度を考慮した鉄骨制震構造、浸水深を考慮した床レベル設定、火災時の水平避難といった確実かつ根拠のある提案でした。

一方で、大きなポイントとなっている既存病棟の先行解体について、運営面での確実性に検討が必要なものの、全体として手堅く実現性の高さを感じさせるものでした。